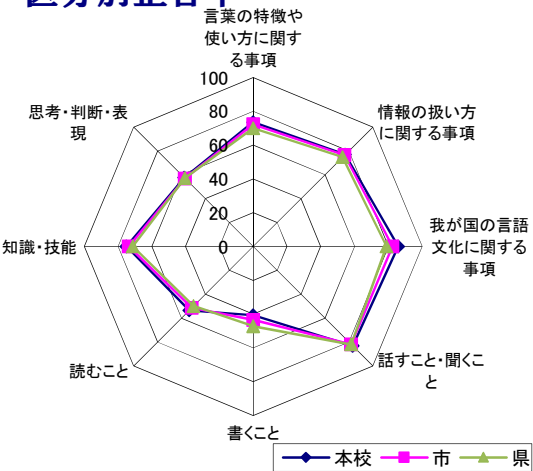


宇都宮市立富士見小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	73.6	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	77.0	76.4	74.9
	我が国の言語文化にに関する事項	85.8	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	83.2	81.9	82.0
	書くこと	40.7	43.5	47.2
	読むこと	53.4	51.4	49.8
観点	知識・技能	75.0	73.6	71.3
	思考・判断・表現	57.7	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○本領域の平均正答率は73.6%で、県の正答率を3.6ポイント上回った。 ○「連体修飾語の理解」についての平均正答率は70.8%で、県の正答率を5.1ポイント上回った。 ●「4年生の漢字を書く」の問題において、県の正答率を6.5ポイント近く下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の学習については、引き続き朝の学習や宿題等で定着を図っていく。さらに熟語集めや短文作り、漢字の構成など、工夫して自主学習に取り組み、習熟を図る。また日常生活の中でも習った漢字を活用できるよう意識付けさせる。 ・修飾語をはじめとする「文法」や「語彙」については、引き続き朝の学習や宿題等で復習を行い、さらに定着を図
情報の扱い方にに関する事項	○本領域の平均正答率は77.0%で、県の正答率を2.1ポイント上回った。 ○説明文の内容を読み取る問題において、「情報と情報の関係を理解し、中心となる語や文を見つけて要約している」の平均正答率は69.0%で、5.5ポイント上回った。	・説明文の学習の際に、文章全体の構成を把握させることで情報を読み取り、段落相互の関係を意識しながら要約することができるように引き続き指導していく。
我が国の言語文化にに関する事項	○本領域の平均正答率は85.8%で、県の正答率を6.9ポイント上回った。	・「ことわざ」や「慣用句」、「四字熟語」への興味関心を高めるとともに、親しみやすい古文や漢文の音読、方言などにも親しませる。
話すこと・聞くこと	○本領域の平均正答率は83.2%で、県の正答率を1.2ポイント上回った。 ○「話し手が伝えたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている」の平均正答率は92.9%で、県の正答率を4.2ポイント上回った。 ●「司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して、考えをまとめている」の平均正答率は69.9%で、県の正答率と同じだった。無回答が17.7%だった。	・話を聞くときに、要点に気を付けたり、意見の共通点や相違点に着目したりすることができるように意識付けていく。 ・国語の時間だけでなく、様々な場面で話の内容や伝えたいことの中心を聞き落とさずに考えて聞くことができるように、話の聞き方を今後も継続して定着させていく。
書くこと	●本領域の平均正答率は40.7%で、県の正答率を6.5ポイント下回った。 ●「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている」や「内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書くことができる」など全ての設問において、県の正答率を下回った。	・「指定された長さで書く」「2段階構成で書く」など、条件を示して作文に取り組みせるとともにをさせるとともに、定期的に日記や作文の宿題を出すなど、「書く」指導の充実を図る。 ・国語以外の教科でも、学習のまとめや振り返りの場面で自分の意見や思いを書くことができるように指導する。
読むこと	○本領域の平均正答率は53.4%で、県の正答率を3.6ポイント上回った。 ●叙述を基に文章の内容を捉えることができるにおいて、平均正答率が28.3%で4.6ポイント下回っている。	・朝の読書活動や定期的な図書室の利用を通して、日常的に読書に親しませ、文章に触れる機会を増やす。 ・今後も説明文の読み取りでは、段落相互の関係に注意して内容を読み取る学習を展開する。